

都城市子ども・子育て会議

第4回

平成26年3月27日

15:00~17:00

都城市役所4階秘書広報課前会議室

次 第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事
 - (1) 経過報告
 - ①これまでの経緯
 - ②第3回都城市子ども・子育て会議概要
 - (2) 関係団体等へのグループヒアリングについて
 - (3) 教育・保育の需要量について（速報値）
 - (4) 事業計画の策定方針について
 - (5) 今後のスケジュール
- 5 事務連絡
- 6 閉会

都城市子ども・子育て会議委員名簿

区分	団体名	役職	氏名
学識経験者	南九州大学人間発達学部・子ども教育学科	教授	黒川 <small>ヒサミ</small> 久美
施設運営管理者等	都城市社会福祉法人法人立保育園園長会	会長	藤田 雄三
	都城地区私立幼稚園連合会	会長	下野 喜久夫
	宮崎県児童館連絡協議会	事務局長	江田 かおり
	都城市児童クラブ連絡協議会	会長	小林 <small>ウチノ</small> 内外
	社会福祉法人 光生会ひかり園	園長	豊留 かく子
学校関係者	都城市小中学校校長会代表者	五十市小学校校長	中吉 真理哉
	都城市 PTA 連絡協議会	副会長 (明道小 PTA 会長)	瀬ノ口 敬子
行政機関	都城公共職業安定所	所長	<small>トガシ</small> 富 <small>マサシ</small> 樫 仁
	都城児童相談所	所長	安田 真里
地域関係	都城市自治公民館連絡協議会	理事	永田 優
	都城市民生委員・児童委員協議会	会計	和田 三千夫
市民関係	NPO 法人さらだ	理事長	那須 史代
	公募市民		外山 明美
	公募市民		久場 美和

事務局

所属	職名	氏名
福祉部	部長	瀬戸口 耕一
保育課	課長	青木 眞州男
保育課	副課長	朝倉 信子
保育課	主幹	山中 美代子
保育課	副主幹	村田 淳一
保育課	副主幹	清水 かな子

1 経過報告

(1) これまでの経緯

(1) 第1回子ども・子育て会議

- ① 日程：8月2日
- ② 議事：市長挨拶・選任通知書の交付・委員紹介・役員選出・審議
審議内容：子ども・子育て支援新制度について・子ども・子育て会議について（目的・構成・進め方）・子ども・子育て支援新制度のためのニーズ調査について・今後のスケジュール

(2) 第2回子ども・子育て会議

- ① 日程：9月30日
- ② 審議内容：第1回都城市子ども・子育て会議概要及び経過報告、子ども・子育て支援新制度のためのニーズ調査について（調査票の確認）、子ども・子育て支援環境に関する現状報告、今後のスケジュール

(3) ニーズ把握のためのアンケート調査実施

- ① 時期 10月～12月
 - ② 回収率
- | | | |
|-------|-------------|-------|
| 就学前児童 | 886/2,000 | 44.3% |
| 小学生 | 1,461/2,000 | 73.1% |
| 合計 | 2,347/4,000 | 58.7% |

(4) 第3回子ども・子育て会議

- ① 日程：1月28日
- ② 審議内容：子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査の速報値について、関係団体等へのヒアリングについて、今後のスケジュール

(5) 子ども・子育て支援法に基づく教育・保育需要量について

- ① 国が示したワークシートの提出（2月下旬）
- ② 県との法定協議（3月17日）

(2) 第3回子ども・子育て会議概要

- ① 日時：1月28日 9:30～11:30
- ② 会場：都城市役所南別館3回第2会議室
- ③ 審議内容：第2回都城市子ども・子育て会議概要及び経過報告、子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査の速報値について、関係団体等へのヒアリングについて、今後のスケジュール
- ④ 出席者 委員15名中全員出席
- ⑤ 主な質疑応答

【アンケート調査の単純集計結果について】

調査票	内容	会議での意見及び回答
未就学児	全般的事項	・居住区域、年齢、子どもの数等でも事情が違うのではないかと？ ➤クロス集計等細かい分析はこれから行う。
	子育てについての悩みについて	・18ページの間32について18の経済的な事情の他に子育てについての悩みを示す1、15が多い。行政側の感想は？ ➤自由記述欄を見ても子育てに悩みを抱えている方が多い事がわかった。大丸跡地の子育て支援センターの中身も検討すべき余地がある。細かい分析はこれから行う。 ・乳幼児健診の認知度は他に比べると高いので、丁寧に悩みを聞いて支援することが必要。
	周知方法	・児童館について周知が難しいと感じたが、18歳までの子育ての悩みの受け皿となりうる施設のため、がんばらなければならない。 ・ファミリーサポートセンタ、児童館等についてアンケートで聞かれても何をしているところかわからない。 ・仕事に追われて余裕がないのではないかと。保護者に子育て支援について情報を届ける工夫が必要。 ・乳幼児健診の認知度は高いので、健診のときに工夫する必要がある。
	教育・保育のニーズ	・相談場所等で保育所が多かったのに、保育所の利用希望が下がっている。保育所の現在の利用者がどう思っているのか等の分析が必要。 ・認定こども園や幼稚園の利用意向が多かったのは、平日や土曜の預かり保育等昔と違う在り方になっているからではないかと？

就学児童	放課後の過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブの利用希望が予想以上に低い結果なのは、職員の待遇が悪い等劣悪な環境であり、不安があるのではないか？ ・集団生活が苦手な児童クラブを利用できないお子さんも増えていて、放課後デイサービス事業所も増やす必要がある。 ・放課後子ども教室がない地域についてどう考えるのか？ ➢放課後の居場所について放課後児童クラブ、放課後子ども教室、児童館はそれぞれ目的が違うので、地域のニーズに応じた利用形態を検討する必要がある。 ・放課後児童クラブの利用人数が多いのに利用希望が少ないのは高学年が多いのか？ ・現在の子は集団生活よりゲーム機、テレビ、携帯談話など個人で過ごすことが多いので、集団で過ごすことが意味をなさない状況にある。 ・高学年は習い事、スポーツ少年団、子ども同士の遊び等で必要ないのではないか？ ・利用希望は兄弟関係も影響するのではないか？ ➢地域別や年齢別の分析を行う必要がある。
------	----------	--

【関係団体へのヒアリングについて】

- ・放課後児童クラブや児童館等へのヒアリングをしないのか？
- 放課後児童クラブはあえて機会を作らなくても意見を聞くことは可能と考えている。こういく機会がないとつかめないニーズを調査するものである。
- ・児童発達支援事業については施設のスタッフと利用者のそれぞれに意見を聞くべきではないか？利用者の意見は出向いて伺うべきではないか？
- 関係者については自立支援協議会児童部会（月1回開催）で意見を伺う。利用者については施設に伺うこととする。
- ・若い世代の貧困という問題があると思うが、母子福祉会等は考えられないか？
- 母子福祉会は加入率が低いようなので、こども課と協議する。
- ・中山間地域の調査の方針は？
- 中山間地域のアンケート数が少ないため、保育所が遠い、放課後児童クラブがない等地域ならではの課題を掘り起こすために実施するもの。小学校のPTAに事前にアンケートに回答いただき、集まっていたいて意見交換を行う。

2 関係団体等へのグループヒアリングについて

アンケート調査で把握しきれない定性的な子ども・子育てニーズ等を把握するため、子育て関係団体等を対象にグループヒアリングを実施。

(1) 調査方法：予め、調査シートを送付し、集約し、グループ毎に意見を伺う。

(2) ヒアリング対象団体

区分	団体名
子育て支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO 法人こじいの森・こどもの時間（とき） ・ NPO 法人次世代育成応援団 やっど ・ NPO 法人子育て応援団ひいらぎ ・ NPO 法人ハロー・ユース・JAPAN ・ NPO 法人都城子ども育成クラブ ・ NPO 法人子育てネット おひさまとはらっぱ ・ NPO 法人F Style ・ NPO 法人さらだ ・ NPO 法人ライフサポート和っはっは ・ NPO 法人子育て応援団エンゼルランプ ・ 子育て応援団あおぞら ・ みやこのじょう子ども劇場 ・ みんなのおうち ・ おもちゃ病院みやこんじょ
児童発達支援事業関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人光生会ひかり園 ・ 社会福祉法人アイリス向陽会（都北学園） ・ NPO 法人さらだ ・ 宮崎県社会福祉事業団（高千穂学園）
中山間地域関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 代表（西岳、中郷、各総合支所より）

(3) 実施状況

区分	実施状況
子育て支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前アンケート実施後にグループヒアリング実施(2月28日)
児童発達支援事業関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前アンケートは終了。 ・ 利用者側の意見聴取については日程調整がつかず、都北学園のみ終了。ひかり園、さらだについて、後日実施する。
中山間地域関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前アンケートは終了。 ・ ヒアリングについては日程調整がつかず、5月頃に延期。

子育て支援団体アンケート結果概要

問2 貴団体の活動状況

団体名	対象年齢	活動内容
こじいの森・こどもの時間	乳幼児～小学生とその保護者	児童館、放課後児童クラブ、安心、安全に楽しく過ごせる場所の提供、食に関するスキル、楽しみの場の提供、カナダ生まれの親支援プログラム（ノーバディズ・パーフェクト等）
次世代育成応援団やっど	未就学児と保護者	サロン活動(週2回、季節の行事や情報交換等。)
	年長から中学生	ジュニア・ボランティア2010（高齢者福祉施設訪問、赤い羽根共同募金等）
子育て応援団ひいらぎ	小学校1～6年生	放課後児童クラブ（西小、東小、明和小）
	幼児～成人	フットサル教室
ハローユースジャパン	職場体験学習支援事業	7月と11月に実施される中学校の職場体験学習における生徒派遣の支援(企業紹介)
おひさまとはらっぱ	小学生	放課後児童クラブ（五十市小）
	子育て中の保護者、妊婦	おしゃべり広場（月1回）
	子どもからお年寄りまで	相談支援心のサポート事業（月1回）
	子育て中の保護者、子育て支援関係者	子育て講演会（年1回）
Fstyle	0歳～親と子、子育てに関わる大人	子育て相談、親子クッキング、絵本読み聞かせ（日曜日、月に1～2回）
さらだ	18歳未満	困り感のある子ども及び障害のある子どもの相談と療育支援（月～金）
ライフサポート和っはっは	乳幼児と母親	赤い羽根助成事業「子育て広場カンガルーポケット」、都城市市民公益活動支援事業「カンガルーMOM(ママ)」
	小学校3年生～6年生	夏休み宿題お助け隊
子育て応援団エンゼルランプ	小学校1～6年生	沖水小学校子どもクラブ（学童保育）
子育て応援団あおぞら	小学校1年生～6年生	年間を通して(月～土)自由遊び、おやつ・季節行事、老人ホーム慰問・親子遠足など
みやこのじょう子ども劇場	4歳以上	会員を対象に以下の活動を実施。舞台鑑賞(年4～5回)、自然散策や伝承あそび体験など季節に合った活動(年6回程度)
	0歳～3歳児の親子	毎月1回読み聞かせ、手作り茶話会など。
みんなのおうち	子育て中の親子	保育士が中心となり、遊び、絵本の読み語り、公園での交流(月2回)、出産おめでとう訪問
おもちゃ病院みやこんじよ	乳幼児	毎月第3土曜日、イオンホールでおもちゃの修理、おもちゃ工作等を実施。子どもフェスティバル等にも参加。

問3-1 具体的な子育て支援活動の目的があるか？

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	13	100.0
2	ない		
	無回答		
	全体	13	100.0

問3-2 貴団体の子育て支援活動の目標

- ・中高生の健全育成。非行防止。就職活動の支援。
- ・子どものみならず大人も心育てをしていきたい。子育ての終わった世代も含め、みんなで育ち合う居場所づくりを目指している。
- ・子育て支援・育児中のお母さんの交流の場、文化を学べる環境作りと自分の時間が持てる託児付きワークショップの開催。
- ・親子共々楽しめる環境づくり
- ・子どもたちの夢を育てる。物を大切に作る心や科学を育てる。
- ・子育ての中で育てにくさや困り感がある子どもを持つ又は障がいのある子どもを持つ保護者の相談にのり、その子どもと家族に合わせた支援方法を保護者及び関係機関とともに考えて支援していく。
- ・子どもの健やかな成長及び子育てを応援していきたい。
- ・地域全体で支え合う子育てができる環境づくり
- ・地域のきずなづくり
- ・親子が安心して集える場を提供し、孤立した育児を予防する。
- ・心のサポート
- ・おうちでの子育てを応援する。暖かい雰囲気の中で、親子で楽しい時間を過ごしてほしい。
- ・子どもの健全育成。親や大人、社会の子育てに関する意識を高める。

問3-3 取組みをやって良かったこと、得られたことがあるか。

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	13	100.0
2	ない		
	無回答		
	全体	13	100.0

問3-4 子育て支援活動をやったよかったこと。

- ・ 紹介派遣した企業での指導及び教育
- ・ 親子で感動を共有できたとき。上の世代のお母さんから助言をもらってまたは話をするこ
よって助けられた。乳幼児も心おきなく連れてこれる場としてとてもありがたい、ほっとする
言ってもらった。地域・世代を超えた交流がある。
- ・ 共働きの方の手助けとなっている。
- ・ お母さん同志の交流が出来る事。
- ・ 芸術文化を学ぶ環境を提供することで自分と向き合う時間を持ち、育児に対しリフレッシュす
る等の笑顔づくりのお手伝いできた。
- ・ 同団体のメンバーの資格を生かすことができた。
- ・ 転勤族の方々が「都城はたくさん支援活動場所があるので、助かった」と言って転出された
とき、次の地でも積極的に社会と関わって子育てするきっかけになれたのではと思う。
- ・ 大事なおもちゃ修理をして「ありがとう」といわれること。
- ・ 子どもに笑顔が多くなっていくことで母親が何でも心配事を相談して下さるようになったこ
と、支援により子どもの成長を感じられること。
- ・ 他の業種とのコラボレーションによる支援方法ができるようになった。
- ・ 学童保育を通して子どもさんがクラブに来たいという気持ちや保護者から感謝の子ども場を頂い
た。
- ・ 悩みが解決した、子育てを楽しめるようになった等の感想を頂いたときや親子関係や良くなっ
ている姿を見たとき
- ・ 地域での子育ての悩みを聞くことで、お母さんたちのリフレッシュや子ども達が安心して遊べ
る様子を見て、良かったと思える。一人ひとりの輪が広がったこと。
- ・ ノーバティーズ・パーフェクトの事業を通じて、潜在的な課題を解決するスキルを身につけ、
その人らしい子育てをしていこうという前向きな親に育っていく姿をみることができた。親子のつ
どい場を利用され、N、Pを受け、新しい親・子として自立していかれ生き生きと生活されて
いる姿に出会えた。
- ・ キッズカフェ（子どもが職業体験として、調理の一部、接客等を本物のカフェです。また、
その様子を保護者にみてもらい、子どもの成長や姿に気づき、子育てについての喜びや悩みを話
すことで共感を得、不安を軽減し、前向きに関わる親子への導くことで、子育ての行き詰まりを
解消した。

問3-5 子育て支援活動の課題

- ・ 財源の確保
- ・ 参加企業の確保
- ・ 会場の確保
- ・ 参加人数を制限しているため、参加回数と人数により参加できない人が多い。
- ・ 参加者、会員確保
- ・ 周知先・方法。
- ・ ニーズが高いが、ハード面での受け入れに限界があること。
- ・ 地域の方々との連携
- ・ 行政や他団体との連携
- ・ 主任児童委員や民生委員をつなぐパイプ役を行政に補ってほしい。
- ・ お母さんたちの声を聞いて内容の充実。

問3-6 子育て支援活動の取り組みに関して、公民館等他団体と連携しているか。

No.	カテゴリー名	n	%
1	連携している。	7	53.8
2	現在は連携していないが、 今後は連携したいと思う	5	38.5
3	今後とも連携したいとは思 わない	1	7.7
	合計	13	100.0

問3-7 どのような団体と連携していますか、又は連携したいですか。具体的な団体名・連携理由についてご記入ください。

・同じ考えと方向性を持った団体。お互いに意見交換会を持ちたい。
 ・連携団体：まちづくり協議会、都城島津邸、ボランティアセンター、コミュニティセンター、社会福祉協議会、子育て支援団体、南九州大学、NPO法人、みやざき子ども文化センター、宮崎文化本舗、保育園、幼稚園、学校、子育て支援センター等

問3-8「今後とも連携したいとは思わない」理由

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分の団体だけで十分な活動が行えるから		
2	他団体とうまく連携を取れるかどうか不安だから		
3	同じ考え、方向性を持った団体がない（又は知らない）から	1	100.0
	全体	1	100.0

問4 都城市の子育て支援施策について感じていること。

No.	カテゴリー名	n	%
1	満足している	4	30.8
2	ほぼ満足している	4	30.8
3	やや不満である	4	30.8
4	不満である	1	7.7
	合計	13	100.0

問4-2 問3の理由。市へ改善してほしい事項

保育所や子育てグループ等市が行う会議等に声をかけてほしい。
 本当に困っている人に届く支援や体制になっていない。
 子育て支援の事業を運営している団体の質の向上
 具体的に困っている親子に細かく丁寧に対応支援できる状況が足りない。
 子育て支援センターの充実（職員の資質向上、情報発信等）
 子育て関連情報発信（市役所内の掲示板、HPに子育て関連団体の掲載等）
 民間団体との連携
 一日のイベントではなく、定期的な体験活動、文化的活動をしてほしい。

問4-3 市から支援してほしい子育て支援活動の取組み

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある。	11	84.6
2	ない。	1	7.7
	無回答	1	7.7
	合計	13	100.0

問4-4 市へ支援してほしいこと

活動資金を増やしてほしい。

場所（施設）の利用料が割引になるとありがたい。

育てにくさや困り感のある子ども達は少数だが、相談支援が不足している。公・民の連携が必要。

情報発信、広報活動への協力（広報紙への掲載、新生児の保護者への周知）

場所の提供

活動に対する理解と協力、協働、ともに考え協力し合う人材

職員の質の向上

子育て支援の場の環境の整備

雨の日に行ける場所

民間団体に市の子育て活動（離乳食教室や保育サポーター等）を委託してほしい。

市の持っている情報や講師の派遣・紹介等をしてほしい。

資金不足のため、資金や場所の提供をお願いしたい。

自由記載

・保育園等におもちゃの修理・工作には積極的に出張開院していきたい。希望するところを紹介してほしい。

・育てにくさや困り感のある子どもさん、障害のあるお子さんを育てる保護者も気軽に相談や支援を受けられる環境を整えられるようにしたい。

・子どもの将来を考えた人間を育てるという位置づけでの支援の考え方を確立していくことを考えてもらいたい。

・子育て支援に関わる団体、人のネットワークを新たに作る核になってほしい。

・行政のできない隙間支援をするため、行政の担当窓口を決めてほしい。

・小学生・中学生の保護者が相談する場がない。

・学校にも相談できないいじめ、登校拒否、性の問題などのサポートをするため、必要な情報が欲しい。

・都城市は若い世帯は、共働きが多く、経済面、時間面も余裕が無い家庭が多いので、保育料等の軽減や公共料金の軽減等取り組んでほしい。

◎子育て支援団体グループヒアリング概要

- ① 日時：2月28日 10:00～12:00
- ② 会場：都城市役所南別館3回第2会議室
- ③ 審議内容：子育て支援関係者アンケートについて
- ④ 出席者 14団体中11団体出席
- ⑤ 主な意見

区分	意見等
活動における課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・西小学校と祝吉小で参観日に公民館で託児のボランティアがあるが、利用者が少ない。 ・沖水小でも入学式の時だけでも預かってほしいとのことで、ボランティアが乳児の託児をしているが、利用者が少ない。 ➢情報発信と学童施設との連携が課題。 ・みんなのおうちは学童保育を実施しているが、昼間は空いているので、子育てサークルを実施している。今年から保育士、民生委員、看護師等が出産おめでとう訪問を実施。保育園、幼稚園等専門家としてできる事があると考えている。
他団体との連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・団体との連携の場づくりについては、市が核となって実施してほしい。 ・学童施設と社会福祉協議会、民生委員との連携が課題。各団体がそれぞれ活動しており、地域とのつながりがない。 ・学童保育について、小学校で嫌な事があると、キレる子がいる。情報の共有化等小学校との連携が取れていない。 ・障害のあるお子さんも増えており、家庭、学校、地域、学童保育・放課後デイサービス等との連携が重要。 ・公民館未加入者も多く、民生委員と若い世代の接点がない。 ・放課後デイサービスを学校の先生がご存じない。
市の子育て支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・市長は子育て支援に力を入れているといわれているが、核となる考え方はあるのか？ ➢これまでの次世代育成支援行動計画に基づき実施してきた。今回の計画策定の中に団体への支援も位置付けたい。 ・子育て支援センター等の遊具が老朽化している。地区毎に大きいコミュニティセンターがあればよい。プールや雨の日に遊べる場所等子育て環境の整備にお金をかけるべき。 ➢子育て支援センターは平成6年に子育てに悩む人に相談

	<p>の場として設置したが、利用者が偏っている等の問題もある。情報の出し方等も課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーバディズパーフェクトはカナダでは国が実施しているプロジェクトで自分たちが課題を出し合って解決していくプログラムである。予算化してほしい。 ・日曜日や雨の日に行くところがない。若い世代は低所得のため、低料金で行けるところがあればよいのでは。 ・神柱児童館が日曜日に空いていると、乳幼児のおむつ替えなども助かる。お父さんが行きやすい場所も必要。 ➤大丸跡地について子育て支援センター整備を検討中である。皆様の意見も反映させたい。 ・自宅におけるママさん保育は実施していないのか？ ➤都城市は実施していない。 ・子育て支援センターが情報を一括管理していないため、一時預かり等の情報を繋ぐところがない。保護者は情報を求めている。 ・ファミリーサポートセンターは、働いていない人にとって利用料金が高い。 ・家から出られない煮詰まっているお母さんたちへの支援が課題。 ・学校の先生との関わりで悩んでいる人が多いのに、相談する場所がない。相談窓口がたくさんあった方がよい。 ・保育士の確保が困難であり、ブランクがある人は不安があるので、復帰のためのセミナーが必要。 ➤1月に保育士復職セミナーを実施。南九州大学との連携も図ることになっている。
--	--

◎情報の出し方と小学校、地域（民生委員、公民館等）、家庭、放課後児童クラブ等との連携が課題。

[子育て支援活動関係者アンケート]

問1 貴団体の名称

--

I. 回答者	
記入者名	
連絡先	TEL : FAX : E-mail :

問2 貴団体の活動状況

○貴団体に現在実施している子育て支援活動に関する取り組み内容をご記入ください。（対象年齢、常設の活動場所の有無、活動内容・実施日・回数・活動場所等を記載してください。）

--

問3 貴団体の子育て支援活動の取り組みに関して

3-1 貴団体で取り組んでいる子育て支援活動には、具体的な目的がありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. ある ⇒ 3-2へ進んでください。
2. ない ⇒ 3-3へ進んでください。

3-2 具体的な目的をご記入ください。

3-3へ

3-3 子育て支援活動の取り組みをおこなって、「やって良かった」と思えたことや、何か「得られたもの」がありましたか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. ある ⇒ 3-4へ進んでください。
2. ない ⇒ 3-5へ進んでください。

3-4 それは具体的にはどのようなことですか。ご記入ください。

3-5へ

3-5 子育て支援活動の取り組みにあたってどのようなことが課題となっていますか。具体的にご記入ください。

3-6 子育て支援活動の取り組みに関して、他団体と連携していますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 連携している ⇒ 3-7へ進んでください。
2. 現在は連携していないが、今後は連携したいと思う ⇒ 3-7へ進んでください。
3. 今後とも連携したいとは思わない ⇒ 3-8へ進んでください。

3-7 どのような団体と連携していますか、又は連携したいですか。具体的な団体名・連携理由についてご記入ください。

問4へ

3-8 「今後とも連携したいとは思わない」のはなぜですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 自分の団体だけで十分な活動が行えるから
2. 他団体とうまく連携を取れるかどうか不安だから
3. 同じ考え、方向性を持った団体がない（又は知らない）から
4. その他（具体的に： _____）

問4 都城市の子育て支援活動に関する取り組みに関して

4-1 都城市の子育て支援活動（子育て・発達等各種相談業務、乳幼児健診、子育て支援センター等市が実施している施策及びその情報発信）について、どう感じていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 満足している ⇒ 4-3へ進んでください。
2. ほぼ満足している ⇒ 4-3へ進んでください。
3. やや不満である ⇒ 4-2へ進んでください。
4. 不満である ⇒ 4-2へ進んでください。

4-2 それはなぜですか。また市にどのようなことを改善してほしいですか。
具体的にご記入ください。

4-3へ

4-3 子育て支援活動の取り組みにおいて、市から支援してほしいことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. ある ⇒ 4-4へ進んでください。
2. ない

4-4 支援してほしいことはどのようなことですか。具体的にご記入ください。

◎最後に、市の子育て支援活動に関してご意見がありましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

3. 教育・保育の需要量について(速報値)

【需要量速報値】

平成27年度

	1号(幼稚園・ 認定こども園)	2号(幼稚園)	2号(保育所 +認定こども 園、地域型保 育)	3号(保育所 +認定こども 園、地域型保 育)	合計
0歳児	0	0	0	880	880
1・2歳児	0	0	0	1,938	1,938
3～5歳児	1,749	633	2,370	0	4,752
合計	1,749	633	2,370	2,818	7,570

【現在の利用量】

	1号(幼稚園)	2号(幼稚園)	2号(保育所 +認定こども 園、地域型保 育)	3号(保育所 +認定こども 園、地域型保 育)	合計
0歳児	0	0		825	825
1・2歳児	130	56		2,094	2,280
3～5歳児	1,112	375	3,125		4,612
合計	1,242	431	3,125	2,919	7,717

※認可外保育所を地域型保育と仮定

※幼稚園の満3歳児は3歳になると1号になるので、1・2歳児に記載。

現状の教育・保育施設の利用者数

	1号	2号		2号・3号	2号・3号	1号～3号	
	幼稚園	幼稚園	幼稚園合計	保育所	幼稚園型 認定こども 園	認可外保 育所	合計
0歳児	0	0	0	781	0	44	825
1・2歳児	130	56	186	1,876	56	162	2,280
3～5歳児	1,112	375	1,487	2,850	0	275	4,612
合計	1,242	431	1,673	5,507	56	481	7,717

※保育所、幼稚園型認定こども園は平成26年3月1日現在

※幼稚園は平成26年1月1日。1・2歳児は満3歳児のこと。2号は経常的な預かり保育実施児童数(預かり保育事業実施予定数)で 1号はそれ以外としている。

※認可外保育所は平成26年12月1日現在で、0～2歳は3号認定と仮定。

4 事業計画の策定方針について ～都城市子ども・子育て支援事業計画の位置づけ～

都城市子ども・子育て支援事業計画

都城市総合計画に基づき、子どもを安心して産み、育てられる環境を整備するため、妊娠から学齢期・思春期までのライフステージに応じた子ども・子育てに関する総合計画

教育・保育の提供体制の確保

- 1 計画名称: 子ども・子育て支援事業計画
- 2 根拠法令: 子ども・子育て支援法
- 3 計画期間: 平成27年度～平成31年度
- 4 計画内容(必須記載事項)
 - (1) 幼児期の教育・保育の計画的な整備・給付
 - ① 施設型給付(保育園、認定こども園、幼稚園)
 - ② 地域型保育給付(小規模保育、事業所内保育等)
 - (2) 地域子育て支援事業(法定13事業)※

連携

次世代育成対策

- 1 計画名称: 次世代育成支援行動計画
- 2 根拠法令: 次世代支援対策推進法
- 3 計画期間: 平成17年度～平成26年度
(現在、国において法律の延長を検討)
- 4 計画内容: 地域における子育て支援、親子の健康の確保、教育環境の整備、子育て過程に適した居住環境の確保、仕事と過程の両立等についての目標及び目標達成のための行動計画

※①利用者支援②地域子育て支援拠点事業③一時預かり事業④乳児家庭全戸訪問事業⑤養育支援訪問事業その他要支援児童、要保護児童等の支援に資する事業⑥ファミリーサポートセンター事業⑦子育て短期支援事業、⑧延長保育事業、⑨病児・病後児保育事業、⑩放課後児童クラブ、⑪妊婦健診、⑫実費徴収に係る補足給付を行う事業、⑬多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業(特別支援教育に関する支援等)事業

ライフステージ別計画体系(案)

子どもを安心して産み育てられる環境の整備

・子ども・子育て支援新制度の円滑な移行の円滑な移行・児童手当の給付等

ライフステージ	施策の方向性	具体的な施策
結婚	若者の就労支援	
	出会いの場の提供	
妊娠・出産	地域における出産・子育て支援	安心して子どもを産み、育てるための支援 働く保護者への支援 保育サービス等の充実 等
	母と子の健康の確保・推進	妊婦健診 乳児家庭全戸訪問事業 予防接種 乳幼児健診 小児医療体制の確保 健康相談 等
	困難を抱える子どもや家庭への支援	児童虐待防止体制の充実 ひとり親家庭の支援 配偶者からの暴力への対応 障害児への支援 等
乳幼児期	未就学期の保育と教育の充実	保育所・幼稚園・認定こども園の整備・充実 多様な保育ニーズへの対応 等
	地域における子育て支援の充実	子育て支援センターの充実 ファミリーサポートセンターの充実 等
	母と子の健康の確保・推進	乳幼児健診 予防接種 乳幼児医療体制の確保 健康相談 等
	支援が必要な子どもや家庭への支援	児童虐待防止体制の充実 ひとり親家庭の支援 配偶者からの暴力への対応 障害児への支援 等
学齢期(小学生)	放課後の居場所づくり	放課後児童クラブ 放課後こども教室 児童館 子どもたちの見守り活動 等
	教育環境の整備	生きる力を育てる教育の推進 特別支援教育の推進 家庭と地域における教育力の向上 等
	支援が必要な子どもや家庭への支援	児童虐待防止体制の充実 ひとり親家庭の支援 配偶者からの暴力への対応 障害児への支援等 等
思春期(中学生)	青少年の健全育成	思春期保健対策の充実 いじめや不登校 非行の未然防止の推進 等
	支援が必要な子どもや家庭への支援	児童虐待防止体制の充実 ひとり親家庭の支援 配偶者からの暴力への対応 障害児への支援等 等

5 今後のスケジュール

		平成25年度		平成26年度(消費税8%)				平成27年度(10月より消費税10%引き上げ)
		前半	後半	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
子ども・子育て 支援法に基づくもの	ニーズ調査	アンケート・グループヒアリング						
	計画策定(教育・保育の見込み、需要・供給量、法定13事業)	量の見込み検討 ※需要量算出⇒県との法定協議		確保方策検討 ※教育・保育施設への意向確認・県・周辺市町村との協議等	9月 方策中間とりまとめ 量の見込み・確保	パブリックコメント・県との最終調整		3月 国・県に提出 事業計画に基づく事業開始
	施設に関すること(認可・確認条例等整備)	政省令作成(国)	運営基準(確認制度)等の検	6月 条例整備 関係者への周知	教育・保育施設の確認事務(平成27年度入所分は10月頃までに実施)			
	利用者に関すること(公定価格・利用者負担・保育の必要性の認定)	骨子案(国)	保育の必要性認定基準 公定価格(5月)	6月 条例整備 保育料検討	9月 規則改正	保育の必要性の認定⇒保育利用希望の申込⇒保育園・幼稚園・認定こども園の利用調整		3月 保護者と市町村・事業所との契約 利用開始
	管理システム導入	契約	【支給認定・確認関係】テスト導入・データ移行		運用開始		【請求審査・支払い関係】テスト運用	運用開始
次世代育成 対策推進法 に基づくもの	実績評価	実績評価						
全体	平成27年度予算への反映	主要事業入力(5月)～市長査定(8月)		平成27年度当初予算入力～査定		2月 度予算案議 案提出	平成27年度	
	計画策定(ライフステージ別事業計画)	計画骨子案策定(関係課との協議・調	ライフステージ別事業計画策定	9月 間とりまとめ 計画案中	パブリックコメント最終調整		3月 国・県に提出	事業計画に基づく事業開始